

西むき庚申さま（中河原・現住吉町の昔ばなし）

むかしむかし、ある村に、ひょうぼんの美しいむすめがおりました。ところが、どうじたわけか、むすめには大きないぼがあってとても気にしていました。

あるとき、村のものしりばあさんがやってきて、「西むき庚申さまにおまいりして、おせんこうのはいをいぼにぬれば、いぼはとれる」

と、おしえてくれました。むすめがそのとおり、庚申さまのはいをぬってみると、いぼはたちまち消えてなくなりました。

それいらい、ますますたくさんの方が西むき庚申さまにおまいりするようになりました。

この庚申さまのわきには、大きなけやきの木があり、ずいぶんと太いふじつるがからんで、美しい花をさかせていました。

あるときのこと、じゃまになるといって、三人の木こりが、「切っちまおうじやねえか」と、太けやきを切りたおしてしまいました。

すると、けやきを切った木こりは三人とも寝こんでしまい、おもい病気にかかりました。

木こりのおかみさんたちは、西むき庚申さまにおわびにおまいりすることにしました。すると、もうだめかとおもわれていた木こりたちが、すぐに元気になりました。

『ばちも当たれば、ご利益もある』

その太けやきとふじつるは、庚申さまのご神木だったのでしょう。

【神木】…神社の境内にある木。特に、その神社にゆかりがあつて神聖視されている樹木。または神霊の宿る木。